科目名	キャリア教育（1）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	瀧波栄一郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育（2）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	瀧波栄一郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 1年次後期では滋慶学園グループが必修で行っている「コミュニケーションスキルアップ検定」の問題内容を基に人間教育を行う。 また、キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。 コミュニケーションスキルアップ検定の合格。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」:現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」:新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（基本的対話スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（自己表現スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（社会的スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（サービスマインドについて）	配布プリントを記入し次回提出
13		試験	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受験	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育（3）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	瀧波栄一郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」 「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	本日の感想をレポートにて提出
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育（4）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	瀧波栄一郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」 「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」：現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」：新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	SMBCファイナンスの方をお招きし、マネー講座を開催、社会人になった時に掛かるお金について学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	社会に出る際のビジネスマナー・身なり・挨拶の大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	社会に出る際のビジネスマナー・メールのやり取り・座席位置	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	Digital Foundation(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	中田　雅敏 増田　祐生
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二						
教員の略歴							
授業の学習内容	社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 講義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。						
到達目標	Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタルポートフォリオを所持できるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。（レタッチ中心） Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。（ベジェ曲線操作、デザイン中心） STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ（web）の運営ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション Keynote（自己紹介PPT）を使用して資料を作成しプレゼンする	【事前動画説明】macの基本操作方法 Keynoteの機能説明と基本操作方法
2		講義・演習	ワードエクセル基本操作理解。ワード（ビジネス文章）/エクセル(タイムテーブル)提出　優秀資料のプレゼン発表する	【事前動画説明】Word（文書作成）、Excel（表の作成、表計算）の操作方法
3		講義・演習	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解、基本操作（ワークスペース、ツールバー、パレット、画面拡縮、新規作成、保存）【Ai】図形	【事前動画説明】PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツールバー、パレットなど基本操作方法
4		講義・演習	【Ai】基本操作　選択、図形、バウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダイレクト選択ツール、スタイライズ、パスファインダ、整列、テキスト入力、グループ化、ベジェ曲線、スウォッチ、模様、グラデーション	【事前動画説明】Aiを使用して作れるものの紹介、操作方法
5		講義・演習	【Ps】レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像度、フォーマット	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法
6		講義・演習	【Ai】配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデザインとは何か。（コンセプト～ラフ作成・色理解～提案～レイアウトデザイン～ブラッシュアップ）	【事前動画説明】センスを身につけるために見てほしいものの解説。イベントフライヤーやアーティストサイトのデザイン紹介と解説。好きなデザイン画像やURL、フライヤーや雑誌、グッズなどを収集する。
7		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク	【事前動画説明】ロゴ制作の操作方法 演習：イベントロゴ案を授業前に数種類考えておく。
8		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成（レイアウトデザイン～ブラッシュアップ）　よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる	【事前動画説明】入稿方法。作成したフライヤーデータを印刷会社に入稿できるデータに整える。画像形式、データ名、トリムマーク、PDF
9		講義・演習	【Ps】【Ai】オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツール、アートボード、保存形式を指定して書き出し	【事前動画説明】LINEスタンプの登録方法。事前にLINEスタンプをLINEクリエーターズマーケットへ登録する。
10		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用できるデータ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。	【事前動画説明】素材の著作権について。いらすとやの素材など、商用に利用できるものの検索方法とDL方法
11		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP画像と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。	【事前動画説明】ポートフォリオサイトの紹介。どういう点がポイントになるのか、どのような機能が使用されているかを解説、操作方法。
12		講義・演習	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させる。	【事前動画説明】ポートフォリオの中に入れる写真や動画の選定、レタッチ、保存形式指定など下準備を整える。
13		講義・演習	ポートフォリオサイトの提出 到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考える	

【使用教科書・教材・参考書】

Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション

科目名	Digital Foundation（2）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	中田　雅敏 増田　祐生
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	写真やビデオ等の映像機器及び映像編集ソフトを用いた表現に関する学習を通して、表現力・映像処理能力を高める。						
到達目標	履修者全員が動画制作をできるようになる。 Adobe AfterEffectsの基本操作ができるようになる。（アニメーション作成・エフェクト適用・実写合成中心） Adobe Premiereの基本操作ができるようになる。（カット編集中心） Youtubeに動画投稿し、自身が制作した動画を他社に共有できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	【Ae】AfterEffectsの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、コンポジション作成、平面作成、テキスト入力、図形作成、素材読み込み。最終課題説明。	【事前動画説明】AEを使用して作れるものの紹介、基本操作方法
2		講義・演習	【Ae】キーフレームアニメーションの理解。 基本的なパラメータを使用したキーフレームアニメーションの作成、動画書き出し方法を学ぶ。	【事前動画説明】AEの基本的なパラメータ操作方法、キーフレーム設定方法、 動画の書き出し方法
3		講義・演習	【Ae】トランジションの作成。 キーフレームアニメーションを用いてトランジション映像を作成し、発表をする。	【事前動画説明】トランジションの作成チュートリアル
4		講義・演習	【Ae】テキストアニメーションを理解し、リリックビデオ制作に役立つ機能を取得する。	【事前動画説明】リリックビデオの紹介、エフェクトやテキストアニメーションプリセットの操作方法
5		講義・演習	【Ae】テキストアニメーションを理解し、リリックビデオ制作に役立つ機能を取得する。 エフェクトやテキストアニメーションプリセットを利用し、短いリリックビデオを作成、発表する。	【事前動画説明】エフェクトやテキストアニメーションプリセットの操作方法の続き
6		講義・演習	【Ae】エフェクトを理解し、ダンスビデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、エフェクトの機能を学ぶ。	【事前動画説明】エフェクトを利用した動画の紹介、エフェクトの操作方法
7		講義・演習	【Ae】エフェクトを理解し、ダンスビデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、動画を作成、発表する。	【事前動画説明】エフェクトの操作方法の続き
8		講義・演習	【Ae】自動トラッキング機能について理解し、実写合成に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材と入力したテキストを合成する。	【事前動画説明】自動トラッキングのチュートリアル
9		講義・演習	【Pr】Premiereの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、シーケンス作成、素材の読み込み、カット編集、字幕入力、色調補正、動画書き出し。Youtubeに動画を投稿しURLを共有する。	【事前動画説明】Premiereを使用して作れるものの紹介、基本操作方法。 Youtubeへの動画投稿方法。
10		講義・演習	最終課題選定。リリックビデオ・ダンスビデオ、実写合成から最終課題のジャンルを選択し、映像の構成を考える。 アイデア出し～絵コンテ制作について理解し、完成させる。	【事前動画説明】最終課題の各ジャンルの参考映像を紹介。 アイデア出しの方法、絵コンテの書き方を解説。
11		講義・演習	個人制作	
12		講義・演習	個人制作	
13		講義・演習	個人制作と最終課題の提出(Youtubeに投稿しリンクを提出する) 到達度テスト	【事前動画説明】後期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション

科目名	Music History (1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西田　剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、アメリカの黒人音楽の重要な柱であるジャズについて概要（起源から発展）を学びます。 その歴史の中で、ニューオリンズジャズ、スイング、モダンジャズ、フュージョンなどに触れ、形式を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	ジャズの進化とともにアメリカの黒人音楽について深い理解を示すことができる。 それは、楽曲を聴いた時の分析力となり、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いがわかるようになる。 そして、自分の作品とジャズを深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1）定期テスト60%　2）出席数40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の進め方（資料、音源、DVD、実演）の確認 アメリカの歴史、地理的な特徴を理解する。	レベルチェック：小テスト　アメリカの黒人音楽の進化において重要な都市はどこか？
2		講義	19世紀のアメリカの音楽。	アメリカ音楽の父 スティーブンフォスターStephen Fosterについて
3		講義	ジャズ、ラグタイム、ブルース、その他の音楽や活動のルーツ。	ジャズ発祥の地であるニューオリンズが、歴史上どのような都市であったか？ ジャズが生まれた当時には、どんな音楽が存在したか？
4		講義	ニューオリンズジャズ	主となる楽器は？音楽的特徴は？ ルイ・アームストロング
5		講義	スウィングとビッグバンドジャズ。	カンサスシティ、シカゴ、ニューヨークから全米に広がったスイングについて サウンド構成、バンドリーダーの特徴、リスナーの様子など考察する。
6		小テスト　講義	ここまでのポイント整理	ニューオリンズジャズ、スイングジャズ、モダンジャズの違いを言葉で説明できる。
7		講義	ビバップ	第二次大戦後に生まれた新しいスタイルのジャズ「ビバップ」について、スイングとの違い・特徴を考察する。
8		講義	ハードバップ、アフロキューバンジャズ、ウェストコーストジャズ	ビバップ以降活躍した音楽家（M.デイヴィス、C.パーカー、D.ガレスピー、C.モンクなど） 主となる楽器、そのアプローチを理解する。
9		講義	モードジャズ、フリージャズ	ビバップからフリージャズに至るジャズの進化 J.コルトレーン
10		講義	ビバップ以降、ジャズとロックの融合。	ビートルズの登場など若者の関心が、ジャズからロックへ以降する中で新しいジャズを生む出した改革者を知る。 キーワード：クロスオーバー
11		講義	フュージョン、今日のジャズ。	マイルスデイビスの影響力 ハービー・ハンコック、ウエザーリポートなどを考察する。
12		テスト	テスト	
13		講義	振り返り	ニューオリンズジャズ～スイング～ビバップ以降～フュージョンの流れを時代背景や、 それぞれ主となる楽器、音楽の特徴などを説明できる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			興味の幅を広げることが何よりも大切。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Music History (2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西田　剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、アメリカの黒人音楽の発展において重要なコンポーザーと、その功績を学びます。 学習していく中で中で、ジャズ、ブルース、ロック、ファンク、ブラックコンテンポラリー、ポップスの発展を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	現代のポップスの礎となっているアメリカの黒人音楽を創り上げた偉大な作曲家について深い理解を示すことができる。 それは、現代のポップスを聴いた時の分析力となり、その音楽のルーツがわかるようになる。 そして、自分の作品とルーツとなる音楽を深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1）定期テスト80%　2）平常点20%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の進め方（資料、音源、DVD、実演）の確認 スコット・ジョプリン Scott Joplin (1868-1917) The first hit-maker	レベルチェック：小テスト　ラグタイムについて
2		講義	デューク・エリントン Duke Ellington (1899-1974) Greatest Composer/Band master	ニューヨークジャズ、ビッグバンドジャズ、ダンスとの関連について学ぶ。
3		講義	ルイ・アームストロング Louis Armstrong (1901-1971) Birth of Jazz	ニューオリンズNO.1のトランペッター、歌手としてのルイ・アームストロングについて学習。
4		講義	ロバート・ジョンソン Robert Johnson (1911-1938) Roots of Rock	デルタブルースとは何か？彼がなぜロックのルーツと呼ばれるのか？学習。
5		講義	チャーリー・パーカー Charlie Parker (1920-1955) Master of Improvisation	ビバップについて、しっかりと復習する。以降の音楽への影響は何か？考察する。
6		講義	マイルス・デイヴィス Miles Davis (1926-1991) African-American Icon	マイルスがジャズの発展と、どう関わっていたのか？活動した年代と変化について学習する。
7		講義	ジェイムス・ブラウン James Brown (1933-2006) God father of Soul	ソウルミュージック、ファンクの誕生　人種問題も含め功績を理解する。
8		講義	クインシー・ジョーンズ Quincy Jones (1933-　) The Producer	プロデュースの仕事とは何か？クインシーの残した作品からプロデューサーの仕事を考える。
9		講義	ジミ・ヘンドリックス Jimi Hendrix (1942-1970) Guitar Hero	エレキギターの可能性を最大限引き出した彼の功績を再考し、未来を探る。
10		講義	スティーヴィー・ワンダー Stevie Wonder (1950-　) Magic of Songwriting	音楽神と呼ばれる彼は、一体どのような作曲家なのだろうか？ キャリア、代表曲を分析かつ考察してみよう！
11		講義	マイケル・ジャクソン Michael Jackson (1958-2009) King of Pops	その名の通り　キングオブポップス 彼を育んだ音楽、彼の作品、さらには現代のポップスへの影響力を学ぶ。
12		テスト	テスト	
13		講義	振り返り	ニューオリンズジャズ～スイング～ビバップ以降～フュージョンの流れを時代背景や、 それぞれ主となる楽器、音楽の特徴などを説明できる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			興味の幅を広げることが何よりも大切。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Basic Keyboard(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷　穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードによる基礎的な奏法の習得、バッキング能力の向上を目指す。受講者のこれまでの楽器経験やその習熟度は様々であるため、POPSの範疇における音楽理論やコードの知識において学生それぞれの目的に合わせたアドバイスを行う。						
到達目標	マスターリズム譜を読み、各々でキーボード・バッキングや簡単な楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	平時の出席、取り組み、課題提出の状況と内容による						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	単音と和音 五線譜 コードとコード進行 ボイシング展開の基礎	それぞれの用語について知る□
2		講義・演習	練習課題曲1、構成音とその関係性	課題曲を通し、基礎的なコードについて知る□
3		講義・演習	バッキングパターン1、構成音とボイシング展開	コードの展開系を習得する 基本形と垣根のないものとして理解することが理想□
4		講義・演習	バッキングパターン1、メジャーコードとマイナーコード	バッキングパターンの練習に加え、 メジャーコードとマイナーコードの、鍵盤上での違いを知る□
5		講義・演習	バッキングパターン1、様々なコード進行	バッキングパターンの練習を、様々なコード進行を用いて行う。習熟度に差があるため、初心者へのフォローを重点的に行う
6		講義・演習	バッキングパターン2□	様々な楽曲で用いられるバッキングパターンの一例を知る 前回までと比べ、右手、左手のコンビネーションが多様化する□
7		講義・演習	中間発表	ここまでの成果を実際に発表して今後に活かす
8		講義・演習	バッキングパターン2、四和音について知る□	バッキングパターンの練習に加え、 四和音の構成音と鍵盤での弾き方を知る□
9		講義・演習	バッキングパターン2、パラディドルリズム□	課題で用いられている多様なリズムを、 譜面を用いて理論的かつ体感的に習得する□
10		講義・演習	バッキングパターン2、様々なコード進行□	バッキングパターンの練習を、四和音を含んだ様々なコード進行を用いて行う 習熟度に差があるため、初心者へのフォローを重点的に行う
11		講義・演習	練習課題曲2□	マスターリズム譜の読み方を知る。課題曲のコード分析に取り掛かる
12		講義・演習	練習課題曲2□	ここまで学んだパターンを用いて練習する□
13		講義・演習	中間発表	ここまでの成果を実際に発表して今後に活かす
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			授業と練習の中で疑問点や、自身で苦手とする点を洗い出しておき、 機会を見て質問してください。	

【使用教科書・教材・参考書】

テキストのオンライン受け取りができるデバイスを用意してください(PC、iPadなど)

科目名	Basic Keyboard(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷　穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードによる基礎的な奏法の習得、バッキング能力の向上を目指す。受講者のこれまでの楽器経験やその習熟度は様々であるため、POPSの範疇における音楽理論やコードの知識において学生それぞれの目的に合わせたアドバイスを行う。						
到達目標	マスターリズム譜を読み、各々でキーボード・バッキングや簡単な楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	平時の出席、取り組み、課題提出の状況と内容による						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義・演習	練習課題曲1、オンコード□	オンコードについて理解し、 演奏できるようになる□
2		講義・演習	練習課題曲1、特殊なコード□	特殊なコード(dim,aug,sus4など)を理解する□
3		講義・演習	練習課題曲1、イントロ、リフを演奏する□	コードバッキングに加え、 楽曲中で必要なフレーズを演奏する□
4		講義・演習	練習課題曲2、打鍵について□	弾き語りすることを見据え、 打鍵の強さによって変化する音を感じとる□
5		講義・演習	練習課題曲2、演奏フォームについて□	脱力や姿勢、椅子への座り方を含めた 演奏フォームの見直しを 簡単な実験を通じて行う。
6		講義・演習	練習課題曲3□	譜読みを行う名曲のコード進行を学ぶ□
7		講義・演習	中間発表	ここまでの成果を実際に発表して今後に活かす
8		講義・演習	練習課題曲3、ボイシングでの表現□	ボイシングの変化によって変わるバッキングの響きを感じとる□
9		講義・演習	練習課題曲4、ディグリーコードを用いた移調□	自身で弾き語りすることを見据え、 マスターリズム譜から移調する方法を知る□
10		講義・演習	練習課題曲4、コードアレンジの方法□	循環コードを用いた課題曲を題材に 簡単なコードアレンジの方法を学ぶ
11		講義・演習	練習課題曲4、セカンダリードミナント□	セカンダリードミナントや代理コードを 耳で聞いて違いがわかるようになる□
12		講義・演習	マスターリズム譜の作り方	既存の歌詞とコード程度の譜面から マスターリズム譜面を作成する方法を学ぶ。 直接的にキーボードとの関連はないが、 音楽活動の上で大変重要なため触れることにする。
13		講義・演習	試験と復習□	学んだスキルを生かして実演する今後に向けた課題を 洗い出す□
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			授業と練習の中で疑問点や、自身で苦手とする点を洗い出しておき、 機会を見て質問してください。	

【使用教科書・教材・参考書】

テキストのオンライン受け取りができるデバイスを用意してください(PC、iPadなど)

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	expression A（1） （VT（1））	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	潤　豊 橋元　美沙 近原　淳博 荒木　美帆 近野　飛暁榎畑 孝一 相澤　ななみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる□	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	expression A（2） （VT（2））	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	潤　豊 橋元　美沙 近原　淳博 荒木　美帆 近野　飛暁榎畑 孝一 相澤　ななみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる□	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。 。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	expression C (1) (Diction (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一朗 橋元 美沙 相澤 ななみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、アーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音の表現確認をし練習しておく。
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	主線を覚え復習し実践する
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	高音部ハーモニーを覚え復習し実践する
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	低音部ハーモニーを覚え復習し実践する
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	発音する音を全てを覚え復習し実践する
11		演習	発表会として演奏表現が実践できる	全てのハーモニーを理解し実践する
12		演習	英語の母音レクチャー、表現が実践できる 英語の子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究 800-1000字以内でレポートを作成する。
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポートを作成する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C (2) （Diction (2) ）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一朗 國末 慶宏 橋元 美沙 キム ゴンヒョン
学科・コース	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、応用力とアーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究、800-1000字以内でレポート作成。
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (1) (Piano Duo (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋元 美沙 相澤 ななみ 熊谷 穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望まししい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる 試験	歌からスタートする音楽を学び実践できる. 1-14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Inst Ensemble A (2) (Piano Duo (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋元 美沙 相澤 ななみ 熊谷 穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる試験	歌からスタートする音楽を学び実践できる 1-14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal reading (1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 伶美 荒木 美帆 古木 美優花
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	C マイナースケール（旋律的短音階）3連符(2)、C　短三和音を理解し説明ができる。 C マイナースケール（和声的短音階）8分の6拍子（6拍子として）を理解し説明ができる。	C マイナースケール（旋律的短音階）3連符(2)、C　短三和音を復習レポート作成 C マイナースケール（和声的短音階）8分の6拍子（6拍子として）を復習レポート作成
12		講義	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を理解し説明ができる。 様々な調、音階、拍子記号の練習。（種々の）マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を復習レポート作成 様々な調、音階、拍子記号の練習。（種々の）マイナースケール内の音程を復習レポート作成
13		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal reading (2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 伶美 荒木 美帆 古木 美優花
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	C マイナースケール（旋律的短音階）3連符(2)、C 短三和音を理解し説明ができる。 C マイナースケール（和声的短音階）8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。	C マイナースケール（旋律的短音階）3連符(2)、C 短三和音を復習レポート作成 C マイナースケール（和声的短音階）8分の6拍子（6拍子として）を復習レポート作成
12		講義	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を理解し説明ができる。 様々な調、音階、拍子記号の練習。（種々の）マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を復習レポート作成 様々な調、音階、拍子記号の練習。（種々の）マイナースケール内の音程を復習レポート作成
13		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ダンス基礎(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	木本　雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ダンス基礎(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	木本　雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義・演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義・演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義・演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義・演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Music History (3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	西田　剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、ポップ・ロックミュージックの起こりから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。 その歴史や文化に触れ、グローバルな視点でアメリカ・イギリス中心とした英語圏におけるポピュラー音楽の位置づけを概観することができる。						
到達目標	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深く知ることで、自分たちの作り出す音楽と、ロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト80%　2）平常点20%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	ロックミュージックのルーツ	ポピュラー音楽を学ぶ事＝アメリカの黒人音楽を知る～授業目的の確認 どのように学ぶのか？　授業の進め方（IT資料、音源、DVD、実演）の確認 オールディーズ資料としてアメリカングラフィティ考察
2		講義	20世紀初期のポピュラーミュージック	最も売れたアーチストランキング　ビートルズ、プレスリー、マイケル、マドンナ、ツェッペリンの共通点アメリカの黒人音楽を世界に広めたパフォーマー、ブルースの特徴（コード進行、12小節）をクロスロード（ロバートジョンソン、エリッククラプトン）考察しパターンと音階を理解する。
3		講義	ロックンロールの誕生	プレスリー　チャックベリー　リトルリチャードの考察中心に時代背景を交えて、アメリカ黒人音楽であるR&Rを学ぶ。 また、自分のアタマで考えることを教える　例えばメンフィスは黒人が多く住んでたと思うか？など。
4		講義	フォークミュージックの再燃と公民権運動	ボブディランを中心にフォークソングを考察　代表曲：風に吹かれて　の歌詞の内容を時代背景とともに理解する。 また、時代は異なるが、イマジン：ジョンレノン　の歌詞の本質を学ぶ。
5		講義	イギリス・ポップミュージックの台頭	ビートルズ～　イギリスアーチストのアメリカ市場への侵攻 ベビーブーム世代　当時の若者の考え方を知る。
6		講義	フラワームーヴメント	フラワームーブメント、　ヒッピー、LOVE&PEACE、公民権運動、ベトナム戦争を
7		小テスト　講義	ポイント整理	R&Rの誕生からウッドストックまでの流れを、しっかりと理解する。
8		講義	パンクロック。ニューウエイブ	ロンドンパンク（セックスピストルズ、マルコム・マクラーレン、ヴィヴィアン・ウエストウッド）～ニューウエイブの流れ　と 70年代のポピュラー音楽の大きな流れ（ハードロック、ファンク、レゲエ、AORなどのジャンルの確立）を対比させることができる。
9		講義	MTVの時代	80年代MTV　80年代ビルボードTOP10　マイケルジャクソン「スリラー」考察 MTVのスタートによりプロモーションのあり方自体に大きな変革をもたらしたこと　シンセサイザーの発達　女性アーチストの躍進にも注目する。
10		講義	ヒップホップの誕生	ディスコ　ダンスクラシック（サタデーナイトフィーヴァーなど）の傾向を踏まえて、ヒップホップとの関連　ヒップホップの始まり（ラップ、ブレイクダンス、グラフィティ）を検証 その他、オールジャンルから超一流のアーチストが集結した「We Are The World」を考察
11		講義	21世紀の始まり	今世紀に入ってからのポピュラー音楽の傾向を理解する 新たなメディア（Youtube）との向き合い方を各自で考える。
12		テスト	テスト	
13		講義	振り返り	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Music History (4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	西田　剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、主にヨーロッパ及びアメリカで発生し発展してきた芸術音楽について概要を学びます。 その歴史（中世～20世紀）の中で対位法、オペラ、無調性音楽などに触れ、形式を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	西洋音楽の進化について深い理解を示すことができる。 それは、楽曲を聴いた時の分析力となり、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いがわかるようになる。 そして、自分の作品と西洋音楽を深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1）定期テスト60%　2）平常点40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	中世の音楽 音楽の始まり～グレゴリオ聖歌　教会旋法	授業の進め方（資料、音源、DVD、実演）の確認 レベルチェック：小テスト　身近なクラシック曲（あし笛の踊り）
2		講義	ルネッサンス期の音楽	配布プリント（年表、ルネサンス、バッハのメヌエット） 目標再確認、メヌエットで学ぶ対位法、ルネサンス音楽を聴く
3		講義	バロック期の音楽（オペラ）	バロックという時代を知る。 オペラの始まり1600～バッハの死1750 名作：　蝶々夫人　椿姫　魔笛　コシ・ファン・トゥッテ　鑑賞 考察：オペラ歌手　ソプラノ（コロラトゥーラ、リリコ、などの違いを聴き分ける）
4		講義	J.S.バッハの音楽	バロックとバッハ　時代と背景　対位法、カノン形式について学習する 主よ、人の望みの喜びよ　パッヘルベルのカノン　オペラとオラトリオ　などプリントに沿って学習
5		講義	クラッシック音楽”の時代（ハイドン、モーツァルト）	モーツアルトと古典派　ソナタ形式と交響曲の構成を理解する。その他、協奏曲とはどんな音楽か説明できるようにする。
6		小テスト　講義	ここまでのポイント整理	カノン形式、ソナタ形式、交響曲の構成、オペラとオラトリオの違いなどを言葉で説明できる。
7		講義	クラッシック音楽”の時代（ベートーベン）	ベートーヴェンと古典派～ロマン派の流れを理解する 交響曲「運命」（ソナタ形式）、エリーゼのために、月光など代表曲。 ハイドン「天地創造」（オラトリオ）
8		講義	初期ロマン派の音楽（シューベルト、ベルリオーズ）	ロマン派①シューベルト　ベルリオーズなど考察 ショパン、シューマン、リスト、メンデルスゾーン（主だったピアノ曲）　を聴き ピアノという楽器の歴史を理解する。
9		講義	後期ロマン派の音楽（ワーグナー、マーラー）	ロマン派②ワーグナー、ヴェルディ、ヨハンシュトラウス2世、サン＝サーンス、ドヴォルザーク 前週からの2週で、ロマン派の音楽が重視した人間の感情や個性を理解する。
10		講義	20世紀の音楽（ストラヴィンスキー）	1882~1971 初期の 3 作品(『火の鳥』、『ペトルーシュカ』、『春の祭典』)
11		講義	20世紀の音楽（シェーンベルグ） ケージ、ヴェーブルン　芸術音楽	シェーンベルクを中心に20世紀の音楽　12音技法の解説　音列を知る　その他（サティ、ラヴェルなど）
12		テスト	テスト	
13		講義	振り返り	中世から20世紀までの時代を振り返り、曲の雰囲気がわかるようになったか確認する。 オーケストラの基本編成や様々なジャンル（交響曲、協奏曲、ピアノ曲）を再認識する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	expression A （3） （VT（3））	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	吉田　華奈 橋元　美沙 近原　淳博 荒木　美帆 近野　飛暁 榎畑　孝一 相澤　ななみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる口	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる口	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	expression A （4） （VT（4））	必修選択	選択	年次	2	担当教員	吉田 華奈 橋元 美沙 近原 淳博 荒木 美帆 近野 飛暁 榎畑 孝一 相澤 ななみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。 。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	expression C (3) （Diction (3) ）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑一朗 橋元 美沙 相澤 ななみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、アーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音の表現確認をし練習しておく。
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	主線を覚え復習し実践する
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	高音部ハーモニーを覚え復習し実践する
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	低音部ハーモニーを覚え復習し実践する
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	発音する音を全てを覚え復習し実践する
11		演習	発表会として演奏表現が実践できる	全てのハーモニーを理解し実践する
12		演習	英語の母音レクチャー、表現が実践できる 英語の子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究 800~1000字以内でレポートを作成する。
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポートを作成する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	expression C (4) (Diction (4))	必修選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑一朗 國末 慶宏 橋元 美沙 キム ゴンヒョン
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、応用力とアーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究、800-1000字以内でレポート作成。
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Inst Ensemble A (3) (Piano Duo (1))	必修選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗 熊谷 穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望まししい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Inst Ensemble A (4) (Piano Duo (2))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗 熊谷 穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Vocal Reading (3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	熊谷　穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	G　メジャースケールについて説明できる。	G　メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G　メジャースケール(1)　コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B♭メジャースケールについて説明できる。	B♭メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E　マイナースケールについて説明できる。	E　マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。 E♭ メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	D メジャースケール復習レポート作成 E♭ メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義	D マイナースケールについて説明できる。 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	D マイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義	期末試験と復習	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Reading (4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	熊谷　穣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	G　メジャースケールについて説明できる。	G　メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G　メジャースケール(1)　コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B♭メジャースケールについて説明できる。	B♭メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E　マイナースケールについて説明できる。	E　マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。 E♭　メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	D メジャースケール復習レポート作成 E♭　メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義	Dマイナースケールについて説明できる。]種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Broadway Seminar (1)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	齊藤　早春
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける基礎とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に必要なジ基礎とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		演習	イントネーションテクニックをを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			ミュージカルで必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Broadway Seminar (2)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	齊藤　早春
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		演習	高度なイントネーションテクニックを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		演習	より深いポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		演習	より深いポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		演習	応用のポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		演習	応用のポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			ミュージカルで必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ダンス基礎(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	木本　雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ダンス基礎(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	木本　雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義・演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義・演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義・演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義・演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Chorus Work (3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・コース	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	1″1.音楽する上でハーモニーは必要不可欠な為この授業を受講する意味がある 2. 全ての授業にハーモニーはリンクする 3.どんな曲にも対応できるハーモニー感覚を養ってほしい 4.これらを踏まえコードを使い音感を鍛える耳を鍛える実践に使える講義をする ″						
到達目標	1.先ずはハーモニーの基本とされる3度のハーモニーを確実に身に付ける 2.次に4.5.6.7度等の難易度が高いハーモニーを身に付ける 3.1番難しいとされるユニゾン、オクターブユニゾンを身に付ける 4.最終的に人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる事ができるようにする						
評価方法と基準	授業内発表60%(出席率含む) 授業内取り組み30% 独自に作っているコメントシート記入10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基本である姿勢.呼吸、体幹を学ぶ	オリジナル体幹理論プリント使用
2		講義・演習	様々なコードを使い音感を鍛える	コードプリントで事前学習
3		講義・演習	コードを使ったハーモナイズ実践	前週に配布したコードプリント参照
4		講義・演習	基本の3度ハーモニーを学ぶ	引き続きプリント参照
5		講義・演習	4.5.6.7度のハーモニーも加えて学ぶ	プリントで事前学習
6		講義・演習	既存の楽曲を使いハーモニー実践	その場で楽譜配布して読譜する
7		講義・演習	前週の楽曲を更に深め仕上げる	楽譜を読んで準備学習させる
8		講義・演習	グループを作り色々な人とハーモニー実践	プリントで事前学習
9		講義・演習	グループで楽曲を使いハーモニーを付ける練習	事前に楽譜収集又はコード譜製作
10		講義・演習	前週の復習	事前に楽譜収集又はコード譜製作
11		講義・演習	グループ変えてハーモニー実践	グループ変えてハーモニー実践
12		授業内発表	今までの実践曲をグループで発表	コメントシート記入
13		授業内発表	今までの実践曲をグループで発表	コメントシート記入
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜

科目名	Chorus Work (4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・コース	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	1.前期に学んだ内容を更に深め仕事の現場で使える力を養う 2.ア・カペラ含む更に高度な技術を身に付ける 3.譜面を使い初見力トレーニング						
到達目標	1.読譜力、初見力をトレーニングし現場で実践に繋げる力を養う 2.どんな曲にもハーモニーを付けられる実力を付ける 3.ハーモニーを通して、音感、リズム感、自身の歌唱力も向上させる						
評価方法と基準	前期同様プラス学校のイベントや学校の案件にどれだけ参加したかも成績に加味する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	課題曲実践	夏休み中に出した課題曲の練習
2		講義・演習	前週の復習で修正や内容の掘り下げ	課題曲の練習
3		講義・演習	1人1人課題曲を決めハーモニー付け	パートナーと課題曲の練習
4		講義・演習	前週の引き続き実践	パートナーと課題曲の練習
5		講義・演習	ア・カペラで音感を養う	配布プリントで事前学習
6		講義・演習	様々な楽曲をア・カペラで実践	配布プリントで事前学習
7		講義・演習	ア・カペラを使ってグルーヴ感ピッチ感 矯正する	シェーカー等事前告知し練習する
8		演習	少人数～大人数でのア・カペラ体験	配布プリントで事前学習
9		演習	前週のア・カペラをブラッシュアップ	事前に映像等紹介し練習する
10		演習	クラップやスナップ取り入れて ア・カペラ実践	配布プリントで事前学習
11		演習	実践踏まえたハーモナイズ 身体のスイング等取り入れて歌う	配布プリントで事前学習
12		発表	前期、後期の総まとめ	コメントシート
13		発表	前期、後期の総まとめ	コメントシート
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜

科目名	韓国語(1) (韓国語(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	李美姫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②読解より実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習すしたり発表する						
到達目標	①日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1)定期テスト60%　2)作文20%　3)スピーチ20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	自己紹介＆個人目標設定	ハングルの復習を行う
2		講義・発表	ハングルの理解を深める	文字書いて読める復習を行う
3		講義・発表	教科書の勉強	ワークブックで復習
4		講義・発表	リスニング練習・ペアで話す練習	好きな勉強法で楽しく復習
5		講義・発表	発音をよく聞いてマネする	繰り返して聞いてマネする
6		講義・発表	韓国の地図・文化を知る	教科書の内容を復習
7		講義・発表	友達・趣味・関心事について	作文を練習
8		講義・発表	将来・食べ物について	考えて作文を書く
9		講義・発表	否定・賛成表現	日常に使える表現を調べる
10		講義・発表	一人ずつ発表	自分の声を録音
11		講義・発表	形容詞・過去形 未来形・可能形	出来事について書く 将来やりたいことを考える
12		講義・発表	作文・スピーチ	テスト準備
13		講義・発表	応用練習	日記を書く
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

できる韓国語初級1，2　CD付、ワークブック、プリント、ゴロで覚える韓国語、ビジュアル韓国語、韓国語講座

科目名	韓国語(1) (韓国語(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	李美姫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②読解より実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習すしたり発表する						
到達目標	①日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1)定期テスト60%　2)作文20%　3)スピーチ20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	新聞 － 韓国のニュース記事を読んで理解す	ハングルの復習を行う
2		講義・発表	職業 － 職業に関する韓国語の単語を学ぶ。	ハングルの復習を行う
3		講義・発表	過去形 － 過去の出来事を表現するための文法を学ぶ。	ワークブックで復習
4		講義・発表	伝統行事 － 韓国の伝統的な行事や文化について学ぶ。	ワークブックで復習
5		講義・発表	発音練習 － 韓国語の発音を正確に練習する。	繰り返して聞いてマネする
6		講義・発表	友達との会話 － 友達との日常会話を練習する。	ワークブックで復習
7		講義・発表	ドラマ － 韓国ドラマを聴いて内容を理解する。	ワークブックで復習
8		講義・発表	条件文 － 条件を表現する文法を学ぶ。	ワークブックで復習
9		講義・発表	食べ物 － 韓国の食べ物に関する単語を学ぶ。	日常に使える表現を調べる
10		講義・発表	敬語 － 礼儀正しい表現や敬意を示す文法を学ぶ。	ワークブックで復習
11		講義・発表	観光地 － 韓国の観光地についての知識を深める。	ワークブックで復習
12		講義・発表	ディスカッション － トピックについてのディスカッションを行う。	他人の意見を聞いてレポートを記載
13		講義・発表	最終テスト準備 － 前期からの復習と最終テストの準備をする。	テスト準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

できる韓国語初級1，2　CD付、ワークブック、プリント、ゴロで覚える韓国語、ビジュアル韓国語、韓国語講座

科目名	韓国語(2) (韓国語(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	李美姫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②読解より実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習すしたり発表する						
到達目標	①日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1)定期テスト60%　2)作文20%　3)スピーチ20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	自己紹介＆個人目標設定	ハングルの復習を行う
2		講義・発表	ハングルの理解を深める	文字書いて読める復習を行う
3		講義・発表	教科書の勉強	ワークブックで復習
4		講義・発表	リスニング練習・ペアで話す練習	好きな勉強法で楽しく復習
5		講義・発表	発音をよく聞いてマネする	繰り返して聞いてマネする
6		講義・発表	韓国の地図・文化を知る	教科書の内容を復習
7		講義・発表	友達・趣味・関心事について	作文を練習
8		講義・発表	将来・食べ物について	考えて作文を書く
9		講義・発表	否定・賛成表現	日常に使える表現を調べる
10		講義・発表	一人ずつ発表	自分の声を録音
11		講義・発表	形容詞・過去形 未来形・可能形	出来事について書く 将来やりたいことを考える
12		講義・発表	作文・スピーチ	テスト準備
13		講義・発表	応用練習	日記を書く
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

できる韓国語初級1，2　CD付、ワークブック、プリント、ゴロで覚える韓国語、ビジュアル韓国語、韓国語講座

科目名	韓国語(2) (韓国語(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	李美姫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②読解より実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習すしたり発表する						
到達目標	①日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1)定期テスト60%　2)作文20%　3)スピーチ20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	新聞 － 韓国のニュース記事を読んで理解する。	ハングルの復習を行う
2		講義・発表	職業 － 職業に関する韓国語の単語を学ぶ。	ハングルの復習を行う
3		講義・発表	過去形 － 過去の出来事を表現するための文法を学ぶ。	ワークブックで復習
4		講義・発表	伝統行事 － 韓国の伝統的な行事や文化について学ぶ。	ワークブックで復習
5		講義・発表	発音練習 － 韓国語の発音を正確に練習する。	繰り返して聞いてマネする
6		講義・発表	友達との会話 － 友達との日常会話を練習する。	ワークブックで復習
7		講義・発表	ドラマ － 韓国ドラマを聴いて内容を理解する。	ワークブックで復習
8		講義・発表	条件文 － 条件を表現する文法を学ぶ。	ワークブックで復習
9		講義・発表	食べ物 － 韓国の食べ物に関する単語を学ぶ。	日常に使える表現を調べる
10		講義・発表	敬語 － 礼儀正しい表現や敬意を示す文法を学ぶ。	ワークブックで復習
11		講義・発表	観光地 － 韓国の観光地についての知識を深める。	ワークブックで復習
12		講義・発表	ディスカッション － トピックについてのディスカッションを行う。	他人の意見を聞いてレポートを記載
13		講義・発表	最終テスト準備 － 前期からの復習と最終テストの準備をする。	テスト準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

できる韓国語初級1，2　CD付、ワークブック、プリント、ゴロで覚える韓国語、ビジュアル韓国語、韓国語講座

科目名	Global communication(1) (Global communication(1))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末　信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	be 動詞(am, are)を使って自己紹介（国籍や出身）する、または出身地を尋ねる会話を練習、疑問代名詞[What]を使って、自分の個人情報を相手に伝え、また相手の情報を聞く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・発表	ホテルにチェックインする際の会話を練習する、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・発表	be動詞を使って、家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、 友達や家族について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・発表	年齢や誕生日について聞く、話す、写真に写っている友達のことについて話す、友達についての紹介文を書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・発表	名詞の所有を表す['s] と[s']を使って、自分の家について話す、[it is]を使って、家具について話す、	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・発表	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する、ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・発表	一般動詞「現在形」を使って、お気に入りの物について話す、一般動詞の「現在形」の疑問文を使って、どのようにテクノロジーを使用しているのかを話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・発表	コミニケーション手段について話す、相手の話を聞いていることを示す、商品のレビューを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「異なる週の活動について比較する」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・発表	「現在形」肯定文、否定文を使って、平日、週末の行動について話す、 「現在形」疑問文を使って、時間・自分のルーティン(日課)について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	相手の意見に賛成したり、相手と共通していることを伝える表現を練習する、自分の行動についてのレポートを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak:前期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE　1

科目名	Global communication（1） （Global communication（3））	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末　信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト（筆記100%)による採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義・発表	be動詞、代名詞の所有格を使って、知人・家族について話す 「～のもの」を表す表現を使って、所有物について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・発表	挨拶をして会話を始める練習をする、興味や驚きを表す表現を練習する 自己紹介をする職場でのフォーマルなEメールを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「人と共通していることについて」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・発表	[Wh-question]を練習する 一般動詞の疑問文、否定文を使って、 習慣・ルーティンについて質問する、返答する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・発表	意思疎通に問題があったことを説明する、繰り返しを求める表現を練習する、ポッドキャストについての意見を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション 「仕事や勉強のためのアプリについて」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・発表	「現在進行形」を使って、今まさに起こっていることについて話す 「現在進行形」「現在形」を練習する、スポーツ、運動について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・発表	知らない情報を人に尋ねたり、情報を読み取ったりできるよう、会話を練習する、サービスや会社に対するコメントを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「フィットネスプログラムを作る」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・発表	「現在進行形」を使って、これから予定している計画について話す 目的格代名詞を使って、人に物をプレゼントする会話を練習する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・発表	誰かを誘う、人から誘われた際の会話を練習する、誘いを断る理由を説明する、未来のイベント案内を読む、書くイベントを企画してアナウンスメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶ」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・発表	過去の出来事について話す自分の意見を述べる；自分の気持ちを相手に伝わる、過去の出来事について質問する、過去形の疑問文、否定文を練習する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	投稿に対して、賛成・反対のコメントを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak：前期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE　2

科目名	Global communication（2） （Global communication（2））	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末　信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト（筆記100%)による採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義・発表	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・発表	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・発表	[Can / Can’t]（能力）を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can’t]（可能性）を使って、職場や学校でできること、できないことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・発表	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・発表	[this]と[these]を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to]を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・発表	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する 場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・発表	[be going to]を使って、週末のアウトドア（野外）プランについて話す、[be going to]（疑問文）を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・発表	夕方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・発表	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak：後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE　1

科目名	Global communication（2） （Global communication（4）） パフォーミングアーツ科　昼間部二	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末　信
学科・専攻		授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト（筆記100%)による採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義・発表	数量詞を使って、一番好きな食べ物について話す 食品の味や調理方法について話す、動名詞とto不定詞を使った会話を練習する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・発表	[I mean]を使って、会話を練習する、飲食店で料理を注文する会話を練習する 、オンライン記事の内容を読み、自分の意見をコメントをする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティを計画する」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・発表	自分の町で何をするのかについて話す、[to / for]を使って、理由を説明する、過去に行った旅行について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・発表	適切なアドバイスや提案する会話を練習する、アドバイスに対しての反応を練習する、海外旅行・生活についてのアドバイスを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・発表	いろいろな物を比較する会話を練習する、[形容詞の最上級]を使って、写真に写った人について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・発表	[I guess]を使って、アドバイスを相手に求める、またはアドバイスをする会話を練習する、写真についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「広告を作り、発表する」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・発表	仕事でどのように危険を避けるかを話し合う、これから先のことについて、適切に表現できるよう、練習する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・発表	[It feels like (it' s like)]を使って、体調不良や怪我の症状などについて話す、将来の自分に向けたメッセージを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画する」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・発表	今までに経験したことや経験したことのないことについて話し合う、 ソーシャルメディアについての内容を読む、話す、質問する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	誰かに頼み事をしたり、許可を得ることができるよう、練習する または、その反応をする表現を練習する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak：後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE　2

科目名	日本語講座(1) (日本語講座(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 ＊前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 ＊後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	1. 日本の企業や業界について理解する。 2. OB・OG訪問やインターンシップを通じて日本での就業を体験し、就職への具体的なイメージを掴む。 3. 日本語で履歴書が書けるようになる。 4. 面接に対応できる日本語力やビジネスマナーを身に付ける。 5. 日本語能力試験N1への合格、または同等の日本語力を身につける。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性　(2)独自性　(3)正確性　(4)表現力　(5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・発表	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・発表	業界研究　調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・発表	業界研究　調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・発表	企業研究　調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・発表	企業研究　調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・発表	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・発表	レベルチェックテスト（20～30分）テスト答え合わせ解説　N1　状況状態に関する語彙	建前、矛盾　チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成　読解問題宿題
9		講義・発表	N1文法　導入文型　～とあって、～ならではの、～にもまして、～からして　例文作成、会話練習　N1語彙　人を見て思う感情表現語彙	あさましい　めざましい　根掘り葉掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成　読解問題宿題
10		講義・発表	ＮＩ文法　導入文型　～を余儀なくされる　～たりとも　～きらいがある　～あっての　例文作成会話練習　N1相手を気遣う語彙	あいにく　何気ない　独自の　などの語彙を使う状況を挙げ　例文作成　読解問題宿題
11		講義・発表	N1文法　導入文型　～をよそに　～なりに　～ないでもない　～すら～なかった　例文作成、会話練習　N1困惑する感情の語彙　実践問題	不審な　閉口する　反発する　などの語彙を使う状況を挙げ　例文作成　読解問題宿題
12		講義・発表	ＮＩ文法　導入文型　文法～とは(驚き)～がはやいか　～そばから　～ずにはおかない　例文作成、会話練習　N1時間　時期の語彙　。夏休みに向けて	適宜、時折　古参の　などの語彙を使う状況を挙げ例文作成　読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・発表	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド』

科目名	日本語講座(1) (日本語講座(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 ＊前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 ＊後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	1. 日本の企業や業界について理解する。 2. OB・OG訪問やインターンシップを通じて日本での就業を体験し、就職への具体的なイメージを掴む。 3. 日本語で履歴書が書けるようになる。 4. 面接に対応できる日本語力やビジネスマナーを身に付ける。 5. 日本語能力試験N1への合格、または同等の日本語力を身につける。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性　(2)独自性　(3)正確性　(4)表現力　(5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・発表	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・発表	業界研究　調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・発表	業界研究　調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・発表	企業研究　調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・発表	企業研究　調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・発表	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・発表	レベルチェックテスト（20～30分）テスト答え合わせ解説　N1　状況状態に関する語彙	建前、矛盾　チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成　読解問題宿題
9		講義・発表	N1文法　導入文型　～とあって、～ならではの、～にもまして、～からして　例文作成、会話練習　N1語彙　人を見て思う感情表現語彙	あさましい　めざましい　根掘り葉掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成　読解問題宿題
10		講義・発表	ＮＩ文法　導入文型　～を余儀なくされる　～たりとも　～きらいがある　～あっての　例文作成会話練習　N1相手を気遣う語彙	あいにく　何気ない　独自の　などの語彙を使う状況を挙げ　例文作成　読解問題宿題
11		講義・発表	N1文法　導入文型　～をよそに　～なりに　～ないでもない　～すら～なかった　例文作成、会話練習　N1困惑する感情の語彙　実践問題	不審な　閉口する　反発する　などの語彙を使う状況を挙げ　例文作成　読解問題宿題
12		講義・発表	ＮＩ文法　導入文型　文法～とは(驚き)～がはやいか　～そばから　～ずにはおかない　例文作成、会話練習　N1時間　時期の語彙　。夏休みに向けて	適宜、時折　古参の　などの語彙を使う状況を挙げ例文作成　読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・発表	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド』

科目名	日本語講座(2) (日本語講座(2))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする　またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける ＊講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う ＊わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす　読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期　期末試験の得点　2・N1レベル文法の習得度　N1レベル語彙の実践問題　正解率　3・出席率　授業態度　以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	N1文法　導入文型　～ともなると　～もさることながら　～に即した　～をおいて他にない　例文作成、会話練習　N1相手に対応する語彙	報いる　用心する　勘違い　などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成　読解問題宿題
2		講義・発表	N1文法　導入文型　～までもなく　～いかん　～とは言えないまでも　～といい～といい　例文作成、会話練習　N1将来未来の語彙	果てしなく　遠からず　粘り強く　などの語彙を使う状況を考え　例文作成　読解問題宿題
3		講義・発表	N1文法　導入文型～のをいいことに　～にもほどがある　～ならまだしも～以前の　例文作成、会話練習　N1物に働きかける語彙	活性化　正常化　目に見えて　などの語彙を使う状況を挙げ　例文作成　読解問題宿題^
4		講義・発表	N1文法　導入文型　～たら～たで　～ようものなら　～ならいざしらず　～にしたことはない　例文作成、会話練習　N1経済の語彙	不況　不振　盛況などの語彙を使う状況を挙げ　例文を作成　読解問題宿題
5		講義・発表	N1文法　導入文型～とはいえ　～といったところだ　～に～ない　～にかこつけて　例文作成、会話練習　N1仕事の語彙	打ち込んでいる　立て込んでいる　乗り切る　などの語彙を使う状況を挙げ例文を作成　読解問題宿題
6		講義・発表	N1模擬試験問題　文法　語彙	文法例文作成　＋　読解問題宿題
7		講義・発表	N1模擬試験問題　語彙　漢字	語彙例文作成　＋　読解問題宿題
8		講義・発表	N1模擬試験問題　文法　漢字	文法例文作成　＋　読解問題宿題
9		講義・発表	N1試験対策	
10		講義・発表	企業研究　調査② 好みの企業BEST 5	
11		講義・発表	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・発表	企業に入ってからのこと。OB OGに聞きたいこ	
13		講義・発表	1年のまとめをプレゼンテーションする。	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド』

科目名	日本語講座(2) (日本語講座(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科　昼間部二	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする　またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける ＊講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う ＊わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす　読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期　期末試験の得点　2・N1レベル文法の習得度　N1レベル語彙の実践問題　正解率　3・出席率　授業態度　以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	N1文法　導入文型　～ともなると　～もさることながら　～に即した　～をおいて他にない　例文作成、会話練習　N1相手に対応する語彙	報いる　用心する　勘違い　などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成　読解問題宿題
2		講義・発表	N1文法　導入文型　～までもなく　～いかん　～とは言えないまでも　～といい～といい　例文作成、会話練習　N1将来未来の語彙	果てしなく　遠からず　粘り強く　などの語彙を使う状況を考え　例文作成　読解問題宿題
3		講義・発表	N1文法　導入文型～のをいいことに　～にもほどがある　～ならまだしも～以前の　例文作成、会話練習　N1物に働きかける語彙	活性化　正常化　目に見えて　などの語彙を使う状況を挙げ　例文作成　読解問題宿題^
4		講義・発表	N1文法　導入文型　～たら～たで　～ようものなら　～ならいざしらず　～にこしたことはない　例文作成、会話練習　N1経済の語彙	不況　不振　盛況などの語彙を使う状況を挙げ　例文を作成　読解問題宿題
5		講義・発表	N1文法　導入文型～とはいえ　～といったところだ　～に～ない　～にかこつけて　例文作成、会話練習　N1仕事の語彙	打ち込んでいる　立て込んでいる　乗り切る　などの語彙を使う状況を挙げ例文を作成　読解問題宿題
6		講義・発表	N1模擬試験問題　文法　語彙	文法例文作成　＋　読解問題宿題
7		講義・発表	N1模擬試験問題　語彙　漢字	語彙例文作成　＋　読解問題宿題
8		講義・発表	N1模擬試験問題　文法　漢字	文法例文作成　＋　読解問題宿題
9		講義・発表	N1試験対策	
10		講義・発表	企業研究　調査② 好みの企業BEST 5	
11		講義・発表	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・発表	企業に入ってからのこと。OB OGに聞きたいこと。	
13		講義・発表	1年のまとめをプレゼンテーションする。	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習　時間外学習			反復練習を通して身につける	

【使用教科書・教材・参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド』